

側方進入椎体間固定術の合併症調査に関する協力をお願い

日本脊椎脊髄病学会
新技術評価検証委員会委員長 中村雅也
担当理事 岩崎幹季
理事長 田口敏彦

日本脊椎脊髄病学会の活動には日頃から多大なご協力を頂き、深く感謝いたしております。お陰を持ちまして、昨今における脊椎脊髄外科を取り巻く急激な環境の変化の中でも本学会も前向きな活動を推進しております。

手術術式や医療機器の進歩は目覚ましいものがありますが、特にその中でも昨今の側方アプローチによる椎体間固定 (Lateral Interbody Fusion: LIF) に対する本学会員の積極的な取り組みには驚くものがあり、治療成績が各研究会や学会で多くの報告がなされております。しかしながら、新しい手術手技や技術には負の側面もあり、適応外使用、医療安全という観点からみれば低侵襲アプローチであるが故に合併症が生じる可能性も否定できません。

そのため、昨年本学会では新技術評価検証委員会が中心となり LIF の合併症調査を行いました。会員の皆様のご協力には感謝します。この新しい術式を安全かつ適正に使用していくためには信頼性の高い情報を集め報告していく責務があると感じており、今後も継続して合併症調査を行っていくことが決定されました。

今回の合併症継続調査ではその内容を信頼性の高いものにするため手術症例を全例調査することを目標としております。そのためには、会員である皆様のご理解とご協力が必要不可欠です。

以下、調査は下記のような形で行う予定です。

側方進入椎体間固定術の合併症調査

2015年4月～12月末の間におけるすべての本手術の合併症を調査します。その後5年間は、前年度1月～12月末の1年間におけるすべての合併症を毎年継続的に調査する予定です。本調査依頼は本学会員に依頼しますが、調査はすべてWEBでの入力となっておりますので、本学会ホームページよりアンケート入力ページにアクセスしていただき、すべての項目に入力をお願いします。その際、重複することがないように入

力は施設ごとでお願いいたします。

【アンケート掲載場所は以下の通りです】

学会ホームページ (<http://www.jssr.gr.jp/>) の以下の「 」部分のバナーをクリックし、回答のご登録を宜しくお願いいたします。



繰り返しますが、信頼性の高い合併症報告を行い、本手術が適正かつ安全に普及していくようにするためにも、全例調査について皆様のご協力のほど宜しくお願い申し上げます（アンケートに回答いただいた場合は貴施設内での合併症報告における了解は得られているものと判断させていただきます）。

なお、このアンケート調査を実施するにあたっては、当学会の倫理委員会の審議を経て、その承認が得られています。

ご不明な点や疑問点があれば、学会事務局にメール (maf-jssr@mynavi.jp) にてお問い合わせください。委員会より回答させていただきます

以上ご了解いただきましたら、アンケートご登録と前後して、以下の了解をPDFメール添付 (maf-jssr@mynavi.jp) やFAX (03-6267-4555) にて事務局までお送りいただければ幸いです。

なお、了解のPDFおよびFAXがなく、アンケートにご回答いただいた場合も、ご回答いただいた以上、上記内容は了解されていたものとみなしますので、ご注意ください。